

医療的ケア児のための 子育てサロン にこちゃんルーム

社会福祉法人一粒

生活相談支援センターしゃろーむ

新井亜希子



にこちゃんルームの経緯

①社会資源の不足

地域に医療的ケア児のための社会資源がなかった。

②出会い

しゃろーむの所長に声をかけてもらった。

③サロンの誕生

同じ思いを持つ母親と話し合い、子育てサロンが始まった。



お母さんたちの声
ここは私たちにとってなくてはならない場所。ここでみんなと話をすれば気持ちが楽になります。

こどもの笑っている顔を見ると“ホッ”とします。

医療的ケア児の子育てサロン にこちゃんルーム

毎月第3水曜 開催

時間	10:00 - 12:00	
予定	4月17日	10月16日
	5月15日	11月20日
	6月19日	12月18日
	7月17日	1月15日
	8月▶休	2月19日
	9月18日	3月19日

場所 CAFE DE ミリュー

埼玉県北本市中丸 9-257 びおます蒲桜内

社会福祉法人 一粒
生活相談支援センター しゃろーむ
tel.048-598-7099 soudan_1@hitotubu.or.jp

「しゃろーむ」では母子の声を公的支援事業につなげたり、お悩みやご相談を承ります。ご参加を心よりお待ちしております。 スタッフ一同



にこちゃんルームの目的

- 居場所作り
医療的ケア児のご家族が安心して集える場所を作る。
- 情報交換
お母さん同士が情報交換や悩みを語り合える場所を提供。
- 療育の機会
お子さんが家族以外の人と触れ合う時間を作る。



医療的ケアの 母親の課題

①精神的負担

生まれたばかりの医療的ケア児をまのあたりにして
途方に暮れる。

②体力の消耗

難しい病気や慣れない医療行為によって
体力が奪われる。

③家事との両立

先の見えない子育てをしながら、日々の家事に
追われ疲労困憊。



お母さんの ケアの重要性

家庭の太陽 ☀

お母さんは家庭の太陽。

お母さんの元気が家族の元気に繋がる。

ケアの必要性 ♡

お子さんと同じようにお母さんもケアが必要。

バランス 🗝

母親としての役割と個人としての生活のバランス
が大切。



療育の可能性



5感の活用
寝たきりでも5感を使って
様々なものを吸収している。



意思表示
モニターの数値を動かして
意思表示する例もある。



発達支援
医ケアがあっても発達年齢に
あった成長を応援できる。



にこちゃんルームの 開催詳細

開催頻度	毎月一回
開催日	第三水曜日
参加方法	対面またはzoom

月一回の開催は、医ケア児の忙しいスケジュールに配慮しています。
Zoom開催も可能です。



医療的ケア児の子育てサロン にこちゃんルーム

毎月第3水曜 開催

時間 10:00 - 12:00

場所 CAFE DE ミリュー

予定

4月17日	10月16日
5月15日	11月20日
6月19日	12月18日
7月17日	1月15日
8月▶休	2月19日
9月18日	3月19日



埼玉県北本市中央 9-257 びおもす蒲板内



社会福祉法人 一粒
生活相談支援センター しゃろーお
tel.048-598-7099 soudan_1@hitotsubu.or.jp

「しゃろーお」では母子の声を公的支援事業につなげたり、お悩みやご相談を承り、ご参加を心よりお待ちしております。
スタッフ一丸



開催時間と 参加方法

①開催時間

10時から12時

②予約不要

予約なし

③自由な出入り

時間内での出入りは自由。



医療的ケア児への 配慮

①ポジショニング

エアレックスマットを使用し

床ずれを防止

②観察

子どもの様子を注意深く観察し

目線にも気を配る

③医療ケア

吸引や注入などの医療行為にも対応



開催場所



カフェ併設
バリアフリーのカフェで
コーヒーを楽しみながら。



第三の居場所
スタバのような、ホッとでき
る空間を目指している。



プレミアム女子会
ママとしてだけでなく、女性と
しての時間も大切にしている。



対象の年齢と地域

新生児0歳から
から参加可能



6歳まで
就学前のお子さんが対象



近隣地域
移動の負担を考慮し近隣のかたが
中心



家族のサポート

夫婦関係	協力して子育てに取り組むことの重要性
兄弟ケア	医療的ケア児の兄弟にも配慮
ストレス管理	ママの心身の健康をサポート



到着と準備

① 10時開始

医療的ケア児とその家族が到着。

② 荷物の搬入

人工呼吸器や吸引機、酸素ボンベなど医療機器を運ぶのでスタッフは可能な範囲で手伝う。

③ ポジショニング

子どもたちをバギーから降ろし、快適に過ごせるよう正しい姿勢をとる。



活動の開始

①手遊び

はじまるよったらはじまるよ♪で開始。

②日付けの確認

今日の日付け、曜日、天気。

③出席確認

健康観察も行う。

④季節のうた

その月に合わせた歌を歌う。



楽しい活動時間



絵本・パネルシアター

絵本やパネルシアター、手袋シアターなどを行う。
子どもたちは高い集中力で見る。



ふれあい遊び

「ららら雑巾」や「バスごっこ」などのふれあい遊びを行います。
子どもたちとても喜ぶ。



抱っこタイム

抱っこはもっとも重要な活動。
最高のリハビリになる。



抱っこの重要性

・リハビリ効果

抱っこは最高のリハビリになる。

体の感覚を刺激し情緒的な発達を促進。

・触れ合いの機会

両親以外の人に触れてもらう機会が極めて少ないので
にこちゃんルームでの抱っこは貴重な経験となる。

・親の負担軽減

日常のケアに追われる親たちにとって、他の人が抱っこしてくることは、大きな助けになる。



フリータイムと情報

自由な交流	防災対策	悩み相談
活動後は、自由時間になり参加者同士が、自由に交流する。 バギーの選び方や、利用している事業所の情報など、様々な話題で盛り上がる。	防災に関する話題は特に関心が高く個別の避難訓練の避難訓練の実施が検討されている。	悩みや困り事を共有しアイデアを出し合う。 経験豊富な先輩ママからのアドバイスも大きな助けになっている。



インクルーシブな環境づくり



保育園との連携
同じ敷地内の小規模保育園の子どもたちが活動に参加するようになった。



自然な交流
医ケア児と園の子どもが自然に一緒に遊ぶ姿が見られる。



相互理解の促進
この交流は、双方の子どもたちにとって貴重な経験となり、障壁のない社会への第一歩となっている。



にこちゃんルームの未来

・活動の広がり

他の地域にも広がりつつあり、同様の取り組みを始めようとする動きが出てきている。

・地域サポート

子育て支援センターのように医療的ケアが必要な子どもたちのための子育てサロンが各地域に増えることが期待されている。

・継続的な支援

医療ケアが必要な子どもたちとその家族にとって、かけがえない支援の場になっている。
今後も活動を続けていく。





ありがとうございます

社会福祉法人一粒
生活相談支援センター
しゃろーむ
新井亜希子

